

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
東放学園専門学校		昭和54年4月1日	堀内 和人	〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人東放学園		昭和54年4月1日	斉藤 晃	〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	放送専門課程	テレビ美術科	平成30(2018)年度	-	令和1(2019)年度		
学科の目的	テレビや舞台関連の美術スタッフを育成する学科。デッサン、デザインから制作に至るまで、美術全般の知識やスキルを習得する実践教育、コミュニケーション能力やビジネスマナー等を身につける人間教育、創造の感性や熱意を育む自立教育という三つの教育方針を定め、メディアとエンターテインメントの発展に寄与できる人材の育成を目的としている。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	情報処理技能検定、日本漢字能力検定、日本語ワープロ検定 中退率:8%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間 - 単位	840 単位時間 - 単位	210 単位時間 - 単位	1,200 単位時間 - 単位	単位時間 - 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)				
80人	79人	6人	8%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		41	人			
	■就職希望者数(D)		36	人			
	■就職者数(E)		36	人			
	■地元就職者数(F)		25	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		69	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88	%			
	■進学者数		1	人			
	■その他		その他4名				
			(令和5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)				
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) ㈱NHKアート、㈱京阪商会、㈱伊佐梅、㈱テレビット、㈱松竹衣装、金井大道具㈱、㈱チトセアート、藤浪小道具㈱、㈱シミズオクトほか					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/toho/design/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		2,250 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		675 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
	うち必修授業時数		600 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		120 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		60 単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数		- 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位					
うち必修授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			2人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			7人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0人	
	計					9人	
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					0人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、

- ①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。
- ②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。

以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。
学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。

また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
藤延 直道	協同組合 日本映像事業協会	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	①
森 俊文	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会顧問	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	①
竹田 和史	株式会社 ブルーフラッグ 制作部	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
長谷川 一彦	株式会社東京サウンド・プロダクションビデオセンター編集課	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
富田 健吾	株式会社 ブル 常務取締役	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
市川 一弘	株式会社共立取締役 管理本部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
高津 勝仁	松竹衣装株式会社 営業本部 映像部部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	③
堀内 和人	東放学園専門学校 校長 教育課程編成委員会 委員長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
笹原 恭	東放学園専門学校 教務教育部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
木戸 司	東放学園専門学校 学務管理部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—
津田 周二	東放学園専門学校 教務教育部 テレビ美術科 学科主任	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (1年間)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月22日 14:00～16:00

第2回 令和6年3月29日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

一回目の委員会で、企業や業界団体の学外委員から業界の動向や学校に求める人材育成像(知識・技能)、教育課程編成の助言等を聴取した上で学内委員との協議を行い、学科担当教員で構成するカリキュラム会議で教育課程の編成案を作成し、二回目の委員会で、学外委員への報告と協議を行い、次年度以降の教育課程の編成や授業内容の改善等に反映している。

【具体的な助言と取り組み】

・当学科の教育課程の内容やバランスについて概ね過不足ない旨の意見に対し、今後も常に必要に応じてカリキュラムや授業内容の改善や工夫を図り続ける。

・ビジネスマナーに関する科目を昨年度から必修化した点を評価され、就職後の定着率や安定した求人件数の維持に繋がっているため、今後も就業意識に関する指導を強化するなどキャリア教育の充実化を図り、進路指導や就職支援を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 美術業界の多種多様な知識と技術の習得、現場実習やインターシップの強化等を重点項目としている本学科において、これらの目的を達成するため、デザイン・大道具・装飾・衣装等を主たる業務としている各企業と、広範囲に渡って総合的に関わる企業、学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
 - ② 「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
 - ③ 実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
- 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、デザイン・デッサン・PCスキル・大道具等の美術全般において、それぞれの分野の技術力を身につけるための、実習・演習等の授業を実施している。ほぼすべての授業において、各職種に実際に携わっている企業と連携を行っており、習得した知識や技術の達成度を勘案しながら、実習作業の忠実度や意欲等を含めた学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、美術系業務の各職種において、学生の志望職種を見極めながら、さらに理解度や実践力を高めるための、応用的実践授業を実施。1年次同様に各職種に従事している企業等と連携しながら、授業ごとに設定する目標到達度を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
CAD実習Ⅱ	VectorWorksの豊富な機能をマスターし、他のアプリケーションとの連動を行うことで、作図の表現力を高めます。	株式会社アルティア
デッサンⅠ	基本図法を学び、リンゴや手などの身近なモチーフを描くことで、美術の基礎である「デッサン力」を身につけます。	株式会社アルティア
デッサンⅢ	「デッサンⅠ・Ⅱ」の応用。構図・色・質感なども正確に表現できるよう、「デッサン力」を高めます。	株式会社アルティア
アートフォトショップⅠ	「フォトショップ」の基本操作を習得し、いくつかの作品づくりを通して、デザインの基本を学びます。	株式会社スカイハイ
アートイラストレーターⅠ	「イラストレーター」の基本操作を習得し、課題作成を通して、デザインの基本を学びます。	株式会社スカイハイ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、教員研修規程として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 業界動向や輩出人材の理解①	連携企業等: 有限会社 酸京クラウド
期間: 令和5年4月8日	対象: テレビ美術科 教員
内容: 特殊効果分野における最新技術や教育機関に有効な機材の説明、eーランニング視聴による安全面の重要性を学び、新規カリキュラムの開講に役立てる	
研修名: 業界動向や輩出人材の理解②	連携企業等: 東映撮影所
期間: 令和5年7月13日	対象: テレビ美術科 教員
内容: エンターテインメント界を取り巻く現状を理解し、将来を見据えた教育手法や人材輩出に役立てる。また最新技術や教育機関に有効な環境設備を研究する	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 分かりやすい資料の作り方研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和5年7月13日	対象: 東放学園 教員
内容: 「相手に分かりやすく伝え、印象に残るワンペーパー資料」を作成するための5つのステップを、PCを使いながら実際に資料を作成して実践的に学び、業務に活かせる資料作成術を身につける	
研修名: コミュニケーション研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和5年10月30日	対象: 東放学園 教員
内容: 「聴く」などのコミュニケーションの基本スキルにとどまらず自分の意見を分かりやすく伝えるポイントを学び、業務に応用できるコミュニケーションの手法を習得する	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 業界動向や輩出人材の理解①	連携企業等: 株式会社 チトセアート
期間: 令和6年5月31日	対象: テレビ美術科 教員
内容: 株式会社チトセアート(新木場工場)に於いて、テレビ美術の製作環境や手法等を理解し、業界の動向や輩出すべき人材等を的確に把握する説明・業界の人材ニーズに関する講義と意見交換	
研修名: 業界動向や輩出人材の理解②	連携企業等: 東宝スタジオ/株式会社吉田美術
期間: 令和6年6月5日	対象: テレビ美術科 教員
内容: エンターテインメント界を取り巻く現状を理解し、将来を見据えた教育手法や人材輩出に役立てる。また最新技術や教育機関に有効な環境設備を研究、そこから安全面の重要性を学び、新規カリキュラムのプランに役立てる	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: コミュニケーション最適化研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月20日	対象: 東放学園 教員
内容: 仕事が遅滞なく前に進むかどうかを決定づけるコミュニケーションを6要素「目的・量・質・タイミング・伝え方・引き取り」に分解し、自身がそれぞれのどの部分が弱いのか・得意なのかを実践的に学び、業務に活かせる最適化術を身につける	
研修名: ディベートで鍛える説得力強化研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年11月15日	対象: 東放学園 教員
内容: ディベートを通して、説得力向上のスキルを身に付けていく。4つのポイント「論理的思考力・多面的視点・本質追及論・判断力」の習得を目的にし、より実践的な内容部分を身につける	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

(法人の基本方針)

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会
(6)教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を活用し教育活動および学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応できること」「時間をかけて取り組むこと」などを検討・判断し可能な限り出来得ることから改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップなど)

【具体的な取り組み】クラウド型学園ポータルサイトの活用などICT化を促進。実施・分析・検討・改善を繰り返しながら業務の効率化、学園サービスの充実を図り、新たな教育方法・学校運営を施行している。新たなカリキュラムの検討。日進月歩で変容していく関連業界の技術や働き方に合わせた授業内容や授業名を委員の意見の元、検討を重ね、実施に向けて準備をしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岸田 真	桜美林大学 芸術文化群 教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関
田口 裕基	日本大学 鶴ヶ丘高校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高校教諭
小川 尚人	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業
本多 晋	株式会社レック 撮影部	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業
山下 安奈	-	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 令和6年5月

授業科目等の概要

(放送専門課程 テレビ美術科)																
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○		就職講座Ⅰ	自己分析、履歴書作成、自己PR、企業研究、面接対策など、就職活動に不可欠な知識と技能を習得します。	1前	30		○			○					
2	○		就職講座Ⅱ	自己分析、履歴書作成、自己PR、企業研究、面接対策など、就職活動に不可欠な知識と技能を習得します。	1後	30		○			○					
3	○		テレビ美術基礎Ⅰ	テレビスタジオの設備や美術スタッフの役割などを理解し、設計図面の描き方を習得します。	1前	60		○			○				○	
4	○		テレビ美術基礎Ⅱ	「テレビ美術基礎Ⅰ」の応用。ドラマやバラエティなど、様々な番組セットのプランニングと図面作成・模型製作を行います。	1後	60		○			○				○	
5		○	美術スタッフマネジメントⅠ	美術スタッフの業務とテレビ番組の企画決定から美術セット完成までの多岐にわたるワークフローを学びます。	1前	30		○			○				○	
6		○	美術スタッフマネジメントⅡ	「美術スタッフマネジメントⅠ」の応用。ライブイベントにおける美術スタッフの役割などを学び、職業の選択肢を広げます。	1後	30		○			○				○	
7	○		美術スタッフ養成講座	様々なジャンルで活躍する、美術関連のプロフェッショナルが現場におけるトピックスやノウハウを伝授します。	1通	60		○			○			○	○	
8	○		美術デザイン基礎Ⅰ	デッサン、パース、平面図など美術デザインの基礎から、色彩学、平面構成、立体構成まで学習します。	1前	60		○			○				○	
9	○		美術デザイン基礎Ⅱ	「美術デザイン基礎Ⅰ」の応用。デッサン、パース、平面図など美術デザインの基礎から、色彩学、平面構成、立体構成まで学習します。	1後	60		○			○				○	
10		○	舞台美術Ⅰ	台本の読み方、舞台用語、香盤表の作り方、小道具のデザインなど、舞台美術の基礎を学びます。	1前	30		○			○				○	
11		○	舞台美術Ⅱ	「舞台美術デザインⅠ」の応用。台本を読み、演出意図をふまえた舞台のデザインや模型を製作します。	1後	30		○			○				○	
12		○	プロになるためのテレビ番組の見方	実際のテレビ番組を美術という視点で解説し、シミュレーションすることで創造の感性や熱意を育みます。	1前	30		○			○				○	
13		○	アートイラストレーターⅠ	「イラストレーター」の基本操作を習得し、課題作成を通して、デザインの基本を学びます。	1前	30					○	○			○	○

46	○	舞台美術制作 実習	実際に公演する演劇の大道具や小道具を製作し、搬入、建て込み、本番、撤収まで、舞台美術の一連のプロセスを実践します。	2 前	60				○	○	○
合計				46 科目	2250 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う （留意事項）	1 学期の授業期間	15 週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。